

SAFETY JOGGER INDUSTRIAL

Light

GOBI S1P

GOBIS1P

ローS1P安全靴

スエード製のアッパー、スチール製トゥキャップ、メモリーフォームによる快適性、そして耐摩耗性に優れたトゥキャップを備えた、モダンなS1P安全靴です。

アッパー	スエードレザー, メッシュ
裏地	リサイクルメッシュ
インソール	SJメモリーフォームフットベッド
ミッドソール	スチール
ランニングソール	PU/PU
トゥーキャップ	スチール
カテゴリー	S1 P / SR, SC, LG, FO, CI
サイズ範囲	EU 35-47 / UK 3.0-12.0 / US 3.0-13.0 JPN 21.5-31 / KOR 230-310
サンプル重量	0.625 kg
規範	EN ISO 20345:2022+A1:2024 ASTM F2413:2024

CO_2 10.56 kg



BLK



NAV

耐摩耗性オーバーソール（SC）
アッパー素材の磨耗を軽減し、安全靴の使いやすさを長持ちさせるために、セーフティ・トウ・キャップを覆う素材を別途テスト。



滑り抵抗（SR）
以前使用されていたSRA+SRB=SRCという用語に代わるもの。SRは、石鹸と油で汚染されたタイルでスリップテストを行ったことを意味します。



耐油・耐燃料
アウトソールは耐油・耐燃料性。



ラダーグリップ（LG）
セーフティ・シューズのシャフト部分には、はしごに立つ際の安全性を高める特別な輪郭が施されています。



通気性の良いレザーアッパー
天然皮革は、高い快適性と耐久性を兼ね備え、多様な用途に使用されています。



コールドインシュレーション（CI）
足を暖かく保つ保冷材（CI）安全靴。寒い環境で履くものです。

産業分野:
オートモーティブ, 建設, ロジスティクス, 産業分野, 組立

エンバイロメント:
ドライ環境

メンテナンス方法:
靴を長持ちさせるために、定期的にクリーニングし、適切な製品で保護することをお勧めします。靴を暖房器具の上や熱源の近くで乾かさないでください。

試験結果:

	商品説明	EN ISO 20345	結果	測定単位
アッパー	**スエードレザー, メッシュ**			
	上段：水蒸気透過性	≥ 0.8	12.7	mg/㎠ /h
	上段：水蒸気係数	≥ 15	101.6	mg/㎠
裏地	**リサイクルメッシュ**			
	裏地：水蒸気透過性	≥ 2	86.31	mg/㎠ /h
	裏地：水蒸気係数	≥ 20	691	mg/㎠
インソール	**SJメモリーフォームフットベッド**			
	フットベッド：耐摩耗性（ドライ / ウェット）（サイクル）	25600/12800	25600/12800	しゅうき
ランニングソール	**PU/PU**			
	アウトソールの耐摩耗性（ボリュームロス）	≤ 150	137	㎣
	基本的な滑り抵抗 - セラミック＋NaLS - 前方ヒールスリップ	≥ 0.31	0.40	フリクション
	基本スリップ抵抗 - セラミック＋NaLS - 後方前進スリップ	≥ 0.36	0.41	フリクション
	SR 耐滑性 - セラミック＋グリセリン - 前方ヒールスリップ	≥ 0.19	0.29	フリクション
	SRスリップ抵抗 - セラミック＋グリセリン - 後方前進スリップ	≥ 0.22	0.30	フリクション
	帯電防止値	0.1 - 1000	33.6	メガオーム
	ESD値	0.1 - 100	N/A	メガオーム
	ヒールエネルギー吸収	≥ 20	30	J
トゥーキャップ	**スチール**			
	耐衝撃セーフティノーズ（衝撃後クリアランス100J）	N/A	N/A	mm
	耐圧性のある安全ノーズ（10kNの圧縮後のたわみ）	N/A	N/A	mm
	耐衝撃セーフティノーズ（衝撃後クリアランス200J）	≥ 14	15	mm
	耐圧縮セーフティノーズ（圧縮後クリアランス15kN）	≥ 14	20.5	mm

サンプル数: 42

当社の靴は常に進化しており、上記の技術データは変更される可能性があります。すべての製品名とブランド名Safety Jogger は登録されており、当社の書面による同意なしに、いかなる形式でも使用または複製することはできません。

エコロジカル・フットプリント:

	商品説明	結果	測定単位
CO#排出量			
	素材	8.28	kg
	包装	0.12	kg
	生産	1.90	kg
	輸送	0.26	kg
		10.56 kg CO2 / ペア	

	商品説明	結果
リサイクル素材の割合		
	Product	8%
	包装	99%

CO2の算出:
数値は小数点以下2桁で四捨五入されます。
これらの分析は、コルティナ・グループ内で開発された独自の環境計算ツールを使用して行われます。CO2値は計算時点でのものであり、変更される可能性があります。